

2014年3月15日(土)

経済同友会教育フォーラム

@日本工業倶楽部

13:00~17:00

## 第1部 基調講演

「失敗しよう。失敗して成長の糧にしよう。」

長島徹(経済同友会・副代表幹事、帝人株式会社・相談役)

### ●帝人の紹介

人造絹糸を日本で最初に作った会社

はじめは儲かっていたけれど、競争も激しくなる。

その後、ポリエステルが入ってきて、そこで再びもうける。

現在は、中国が強体化。日本はポリエステル市場で2%しか生産していない。

→韓国や中国がすぐまねできないような技術開発、生産にシフトしている。

### ●様々な商品開発

新幹線(ガラス→ポリカーボネート樹脂)

飛行機の機体材料(炭素繊維)

自動車パーツ(炭素繊維)

丈夫で軽いランドセル、燃えにくいカーテン(ニトリと共同で開発)

### ●これからの世の中は

・18~19世紀の産業革命

イギリス→欧州→米国→日本→中国・インド

200年後再び中国・インドが強大な経済国に

・コンドラチェフの50~60年周期

超長期世界経済景気の循環

すごく長い周期で景気がよくなったり悪くなったりする。

1960~1980年代:日本上り坂

1990~2010年 日本下り坂

2014年は景気の底打ち。今後は景気上昇

2020年頃には日本も元気になり活気がでてくる。

### ●仕事もグローバル化の時代に

- ・なぜグローバル化を迎えたのか？

ジェット飛行機、インターネット

人の移動、情報・金の移動

- ・失われた20年に日本人は内弁慶に？

日本人留学生の減少

アメリカには新しいコトを起こす力がある

- ・英語力は中学生で習うレベルで十分通用
- ・特にアジアで尊敬され、存在感を示すことが必要

### ●外に出よう・

- ・コミュニケーションする力をつける

人と人との繋がりを持つ

挨拶、笑顔

遠慮せずに発言する

相手の話を聞く、聴く、訊く (hear、listen、ask)

- ・海外経験をする

自己成長のプロセス (自立の精神とチャレンジ精神)

私の人生で最大の危機 (カナダから米国への入国事件)

※辛い経験をする「何とかなるさ」と思えるようになる。

外国文化や考え方の違いを知る楽しさ (オランダ人の例)

- ・反対側の立場で考える、ものを見る習慣をつける。

### ●どんどん失敗して成長しよう

- ・失敗＝決めた目標が達成できなかったことを失敗する

- ・失敗しても楽観的に考える

- ・人生に明るい見通しを持ち、物事を苦しめないこと

・トーマスエジソン「1000回失敗したわけではない。1000のステップをへて電球が開発されたのだ」

- ・「Dream Big, Take risk」(ジョン・ルース)

### ●夢を見よう

- ・誰にも負けない努力をする

- ・具体的な目標、できれば大きな夢を持つ

## 第2部 グループディスカッション

講師:林明夫(開倫塾、経済同友会)

### 話題提供「これからの社会で求められる力とは」

#### ●学力を身につける目的

##### ①人生の成功

多様な選択肢のある人生

##### ②正常に機能する社会

持続可能な社会の形成に貢献

#### ●これからの社会、求められる学力

①知識基盤社会・・・知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力

②グローバル化社会・・・多様な集団で交流する能力

③課題山積社会・・・高い志、使命感、「自律的に活動する能力」

英語だけはできた方がよい。

あるいは、グローバル化の中での最低限の知識（イスラム教の人とつきあうのに宗教的な知識も必要）。

#### ●前提となる条件

##### ①学習の仕方

辞書の活用

##### ②読書による思慮深さ

図書館の活用

##### ③新聞を読み自分で考える力、批判的思考能力

NIE

・お金持ちが「学習」に結びつくのは、読むべき書籍が十分に家にあるからでは？

・自分は新聞を読んで「人権」に関する問題を知り、弁護士を志した。

#### ●これからの教員に求められること

##### ①教育改革を先取りして活用を

文科省が取り組んでいること（下村博文）

中学生のときに文部大臣になると決めた。

強い熱意があるから、今いっていることはすべて実現する可能性。

##### ②授業の設計、レッスンプラン、リフレクション

##### ③練習は不可能を可能にする（小泉信三先生）

練習、練習、また、練習

フィンランドの教育は詰め込み教育である。

でも、「理解」が先行する。

その後は、「読む」「書く」練習をしている。

「理解」→「詰め込み（定着）」

## ●最後に

### ①健康第一

弟は弁護士になれたのに、早くして亡くなってしまった。健康がやはり第一だ。

### ②教育ある人とは一生学び続ける人（ドラッカー）

### ③一生勉強、一生青春（相田みつを）

## グループディスカッションのメモ

### ●林氏が今一番勉強したいのは「漢文」

おもしろくてすごく理解できた。

でも、今あんまり身に付いていない。

もう少し、音読なんかの練習をさせてもらえるとよかったかも。

### ●「学び続けている人はぼけない」。

### ●「成功」とは具体的にどういうことか？

→人生の成功＝「よく生きる」こと

- ・あの人はあんな生き方をしたな、ということを誰かに覚えておいてもらえること
- ・また、人生の選択肢は多い方がよい。
- ・「真・善・美」

### ●早く成果を求められる風潮がある。でも、これっていいこと？

→子供たちも「じっくりゆっくり」考えることが苦手。そもそもそういう機会も少ないかもしれない。

### ●国際社会の考える教育の3つの「質」

#### ①カリキュラムの質

#### ②教員の質

#### ③マネジメントの質（校長、理事長、あるいは各主任）

この順で大事。

経営＝営みを経る

営みを経て目的を達することが経営である。

●日本の教職課程の教育の問題点

カリキュラムの組み方などを教職志望の学生はほとんど学んでいない。

外国（フィンランド等のヨーロッパ諸国）では、カリキュラムを組める、自分で教科書を書ける、評価方法を確立できる（テスト作成能力）、それに対するレッスンプランを書ける。

●高校では大学合格実績をあまり重視しない方がよい。もっとドッシリ構えてほしい。

※●「偏差値」に代わる新たな軸としてはどのようなものがありうるか？

→県立足利清風高校の例。

たくさんあった生徒指導件数が現在は0になった。

「こんな学校から卒業生を出したら街が荒れてしまう！」という意識で教員が一致団結して、成果を挙げた。

こういうように、学校独自のセールスポイントをアピールしていけばいいのでは？

足利清風高校の教員は、「進学校は街を出て日本を支えていく。でもこの学校の生徒は、街に残って支えていく。街を支えられる子供を育てよう」という意識をもっていた。

●フィンランドの先生は年収400万円。大卒で一番低い。でも、尊敬を集めるので、なりたい人はたくさんいる。

●学力が低い子が関心・意欲を持つためにはどうすればよいのか？？

→一番いいのは「わかるところまでさかのぼる」こと。

フィンランドでは必ずやっている。

クラスの大半は、そのままついてくる（20名中の13名くらい）

残りの7名は、大学生のボランティアなどが個別対応。

●ICT教育をどうすればよいのか？

→ICTは学校の事務員さんに一番役に立つ。

正社員の方は2名のみ。バイトが5人。この7人でなぜ回せるのか？？

視察にした人は、「30人は必要」という。

パソコンを2年に一度入れ替えてる。

この力が重要。

塾業界でパソコン教室をやっている成功しているところがない。到達点を示しにくい。動機付けをしにくい。

電子黒板も使っているうちに飽きちゃう（使っている方が）。